レッスン：PYR 89

テーマ：質疑応答

PYR 89 KE08 No.13S2 0520

私の姉妹・兄弟たちよ。

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

Q：対象に触れていることを感じたり、対象物を推測するエクササイズの意味は何ですか？

Ｋ：皆さんに与えられる全てのエクササイズの唯一の目的は、気づきを高めることです。私たちはテクニカルな手段は扱うことはせず、気づきが高まる前にパワーや能力を願うこともしません。

　多くのレッスンで述べてきましたが、パーソナリティーは最初は良い動機と共にスタートしても、ネガティブになる危険が常にあります；それ故に、気づきが高まった結果としてパワーと能力が得られる、というケースのみを信頼しています。それはつまり、Lifeそれ自体からより多くを現すということです。

　皆さんに与えられた全てのエクササイズは皆気づきを高める助けになります。もしエクササイズをしても真の意味で体験を得ていないと感じる場合、心配する必要はありません。なぜなら、それは潜在意識の中に記録されているからです。たとえ眠ってしまったり、母国語以外の言語でそれを聞いたとしても、遅かれ早かれそれは潜在意識のマインドの表面に出て来ることでしょう。

　また次のことを知ってください。何であれパーソナリティーに与えられるものにはその恩恵、効果というものがあり、それゆえ肉体のネガティブな症状と関係づけるべきではありません。小さな2つのエゴの中のより小さなエゴは、パーソナリティーをその目的にフォーカスさせないようにします；私たちの内側の否定性は死にたくないので、パーソナリティーを目的にフォーカスさせないように種々の言い訳を創り出そうとします。そしてしばしばそのパーソナリティーがグループからしばらくの間去るように仕向けることもあります。

Q：現在のパーソナリティーが墓の中にいて、2番目のサイクルにいるというエクササイズの真の利益、効果とは何ですか？

K：エクササイズは徐々に2つの小さなエゴのなかのより大きなエゴを刺激し、そのパーソナリティーを正しい方向へと引き寄せていきます、つまりLifeのスパークの方に引っ張っていくということです。

　現在のパーソナリティーが抱く疑いは、小さな2つのエゴの中のより小さなエゴによって押しつけられる、遅くなるというものであり、その結果、パーソナリティーは気づきの上昇に向けたワークを止めて、他の道に向かうかもしれませんが、それは原因結果の法則と関係していることが多いのです。

　求め、道を探しているパーソナリティーは疑いもなく様々な流派、様々なメソッド、そしてさらには黒魔術などを試し、そして最終的にはその人の波動とマッチしたものに落ち着くでしょう。もしこういうことがあまり頻繁に起きると、パーソナリティーは一つのものに落ち着くことなく、次から次へと放浪することでしょう。なぜなら、それ自身の確信による強さを得るために必要な信念を得ていないからです。そしてより小さなエゴは簡単に疑いを生み出します。

Page2

パーソナリティーが通過するステップ、段階がありますが、しかし皆さんがある一定レベルの気づきに到達したら、後ろを振り向くべきではありません；何であれ過去は過去のものです；そして徐々に何に真の価値があり、何に真の価値がないかがわかるようになります。しかし、何であれ過去に起きたことを後悔すべきではなく、それもまた経験の一部とみなされるべきです。

Q：2番目のサイクルでは2つの小さなエゴの中のより小さな方が支配的であるように見えます。しかし、なぜもう一つのエゴを大きなエゴと呼ぶのですか？

K：現在のパーソナリティーは2つの小さなエゴから構成されます。そしてそれらはLifeのスパークを意味する大文字のエゴ(Ego)の影です。

　最初、1番目のサイクルにおいては現在のパーソナリティーの2つの小さなエゴは一つになっていて、そこではパーソナリティーは罪悪感を感じるということがなく、動物のように振る舞います。徐々に、転生、経験の結果として、それら2つが分離します。そしてより大きな方はLifeのスパークの方へ移動し始め、罪悪感のレベルを現すようになります。二元性の結果として、自分の行為、行動に疑問を抱き始めます。最初は、“正しい考え”に関して二元性を現すことがありません。なぜならそのパーソナリティーの理解に関係するからです。そしてそのような思考も初期においては存在しません。

　しかし今やパーソナリティーは自分の行動を分析し、正しいことと間違っていることを見ることができるようになり、そうすることによって過ちを繰り返さないようにする努力が始まります。何であれ起きたことは起きたのであり、それゆえ同じ過ちを繰り返さないようにする修正的動きが始まり、人は出来る限り過ちを繰り返さないようにすべきですが、しかし決して自分の中で喧嘩を生み出すべきではありません。

　現在のパーソナリティーは2つの小さなエゴと共に働いているサイコノエティカル体であり、Lifeのスパークのある永遠のアトムはそこに根付いています。Lifeのスパークは私たちの内側にありますが、しかし同時にそれはあらゆる所にあり、Lifeにはいかなる境界もなく、Lifeは決してアウタルキーを離れたことはありません。現在のパーソナリティーの努力とはそのスパークに近づき、それと一つになることです。そして影にとどまる代わりに、その影を生み出したものと一つになることです。

Q：何らかの理由で、私たちには多くのいろいろな体があります…Lifeのスパークの体、魂の体、天人の体、及び他の多くの体があり、そのため私たちは時に混乱してしまいます。

K：全ての天人の体はLifeの本質を現しており、スーパーサブスタンスの波動を持ち、元型である人間のイデアフォームの形を有し、完全に活性化された骨組みである五芒星はそれを示しています。

　私たちの内側にはまた永遠のアトムがあり、その体は高次ノエティカル体と呼んでおり、自己実現に到達した人はそれにアクセスすることができます；この体はまた私たちの内側にあるLifeのスパークの体と同一です。実存の諸世界にいる間は、高次ノエティカル体はLifeによって求められた時のみ使用され、同調を使用しますが、しかし現在のパーソナリティーとしてではありません。ロゴスとして存在の諸世界においての体はノエティック体であり、同化を使います。存在の諸世界における現れが、仕事をするためにLifeの本質を現す時にはそれがどのような仕事であろうともノエティック体を持ちます。それは法則です。

　アークエンジェルもこの体を有し；それは自己実現した現在のパーソナリティーが最終的に使用する体と同一です；そしてあなたがこの体を使用する時には、サイコノエティカル体を使用しません；それはつまり思考、二元性は必要ないということです。

　誰かがその現れ、つまりノエティック体を使用するステートに到達した場合、その現れはもはや思考を使用せずに同調を使用します；そしてより高いレベルでは、ロゴスとして、Lifeは同調ではなく同化を使います。あなたは宇宙、全体としての創造界など何であれそれと同化します。しかしそれでも創造界はLifeと比べたら無に等しいのです。何であれLifeのなかにあるもの、それはLifeの偉大さに比べたら、それは小さな点、物に過ぎません。Lifeはあらゆるものの原因です；神はすべての原因です。私たちがLifeについて話す時、Lifeは神であることを意味します。

Q：上に述べたことを、キリスト意識のステートにおける自己実現した現在のパーソナリティーとどのように比較しますか；例えばスピリチュアルヒーリングの場合、そこではハートというひとつのセンターだけが活性化されます。

Page3

K：一つのセンターとはLifeの現れを意味し、その一つのセンターは他の全てのセンターより遙かに偉大であり、またサイコノエティカル体はありません。ハートのセンターはそれ以前のようには使われません。なぜならもはやサイコノエティカル体はないからです。

　以前にあった２つのセンター、つまり頭と太陽神経叢のセンターがあった時には、ハートのセンターは感情、気持を意味しますが、自己実現するとそれはアガピとなります、つまり自己実現したパーソナリティーの現れです。

　現在のパーソナリティーは二元性の中にいる間はアガピではなくエロティズムを現します。そしてエロティズムとアガピをミックスするべきではありません。セックスはあるレベルのエロティズムの結果かもしれませんが、しかしほとんどの場合、残念ながらセックスは人間の動物的本質と関連しています。もしそれがエロティズムの真のレベルと関係しているなら、それは祝福されるべきことです。なぜなら、エロティズムとセックスが一つになる時、男性と女性を一つに結びつけるからです。

Q：存在の諸世界には体という現れはあるのですか？

K：存在の諸世界における体にはいかなる限界、境界というものがありません。ノエティック体はあらゆる所へと広がり、諸宇宙をその体の中に抱くことができ、最小の中にも入ることができ、最小のものと同化することもでき、人間がアプローチできないものとも同化することができます：小さくなることなく、物質の原子とも同化することができます。高次ノエティカル体もまたスーパーサブスタンスですが、高次ノエティカルの諸世界に入ることができます。

　高次ノエティカル体は自己実現に到達したときに使用され、その体は活性化されたままとなりますが、しかしそのパーソナリティーが転生のサイクルに留まる場合はそれを継続的に使用することはありません…創造界において助けを与える必要がない限り。そのパーソナリティーは引き続き３次元の諸世界に留まるので、完全に活性化されたサイコノエティカル体を使用することでしょう。

　高次ノエティカル体はノエティック体と同じ波動です。パーソナリティーが創造の諸世界のなかで一つの天体から他の天体に移動して旅をする場合には、スーパーサブスタンスの体を使う必要があり、その時にはサイコノエティカル体は背後に留まり、そのパーソナリティーがいつでも使えるように控えています。

Q：アガピのステートとは、自分自身に愛を現すと他人にもアガピを現すことができる、というものである、と書かれています。それは他人にアガピを示す前に最初に自分自身を愛する必要がある、と言う意味でしょうか？

K：どのセルフ（自分）を愛するのでしょうか、鏡に映っている自分を見て、それに魅惑されている自分ですか、それともあなたの真のイメージですか？

　自分自身を全ての方向から見ることのできる能力に達すると、つまりあなた自身がアガピになると、アガピがあなたの本質となります。つまりあなたがアガピの現れとなるのです。それが意味するところです。あなたがアガピである時にのみ、他人にアガピを現すことができるのです。そしてこれは自己実現のステートから始まります。そのステートではあなたは自分自身を知っていて、そして二元性を後にしています。

　自己実現のステート以前では、勿論私たちは自分に可能な最大の仕方で同胞の人間達を助けることができますが、しかしその現れはエロティズムとなり、それは実存の諸世界のための表現です。私たちがそれを認識しているか否かにかかわらず、そのような形での思いやりは自分自身および自分の周囲の人々に向けられます｡私たちは身近な人々を自分と離れた存在とは見ず、その人のインナーセルフがその人のために良いとみなすことを、その人が経験することを望まないのです。しかし、３次元の波動における全ての経験は、それが良いまたは悪い出来事であるとみなされようとも、それは究極的には本人にとってためになるのです。しかし勿論人間はそのことを知らず、あるいは受け入れようとしません。

　しかしより良い理解があれば、それがその人にとって究極的には良いことでない限り、神はそれが起きるのを許さない、ということを受け入れます。罰する神というものは存在しません。何であれ罰とみなされるものは、実際にはその人にとって良いことなのです。そしてそのようなことが起きるのを導いているのは神ではなく、私たちの内側における最内奥のセルフ、つまり内側にあるLifeのスパークです；そして説明したように創造界におけるすべての神の法則は私たちの内側にあるのです。

　神の慈悲あるいは原因結果の法則に関して、皆さんはそれらの法則はどこにあると思いますか？それらは私たちの内側にあるのです。ですから、何であれ自分に起きることの原因は自分なのです。しかしだからといって、自分自身及び他人を助けようとすべきではないという意味ではありません。結局、私たちは現在のパーソナリティーとして､内側にあるLifeからより多くを現わすためにここにいるのです。それによって何であれ出来る限り共に学び合い、助けを必要としている人々を助けることができるように。

Page4

Q :小さな14芒星に関してですが、それは各転生ごとに異なるのですか？

K：そうです。それはプログラムと共に来ます。しかしだからといって、それを変えることはできないということではありません。私たちには自由意志があり、またこの自由意志は他の周囲の人々とも関係します。それはある意味で人々とのネットワークであるとも言えます、コンピューターのネットワークのようではありませんが。各個人の、及びそのネットワークにおける他の全ての人々のLifeのスパークから決断が下されます；例えば両親、周囲の人々その他。しかし勿論、誰もがそれを変更する自由意志があり、物事は状態が進行していく中で変えることもできます。

　新たな転生がどれぐらいの長さになるかに関係なく、永遠のアトムに記録され、そして新しい小さな14芒星が新たな転生において与えられます。

　そのパーソナリティーが（\*死んだ後）サイコノエティカル界において成長するであろうという理論は忘れなさい。そういうことはありません。そのような考え方は両親を安心させるためです、なぜなら彼等は転生のサイクルがどのようになっているのかを知らないからです。

　明確にしたいことがあります：あるレッスンにおいて次の様に言いました。もし胎児が堕胎されたら、そしてもし同じ両親のもとに生まれたいと思うなら、そうなるであろう、と言いました。また次のようにもいいました、それはサイコノエティカル界において両親のもとに留まるであろうと。そう述べた意味は、その子供はサイコノエティカル界に留まるであろう、そして堕胎した、または死産になった同じ両親の元に産まれるであろう、ということです。サイコノエティカル界に生まれるということではなく、この3次元の世界に生まれるであろうという意味です。

　赤ん坊は亡くなると“即座に”再び生まれてきます。なぜなら引き続きサイコノエティカル界において意識的に存在することができないからです。新たな両親が選択されるまで眠った状態でそこに留まります。

　両親が5歳または6歳（年齢は重要ではありませんが）の子供を失った場合、そのパーソナリティーは同じ両親のもとに同じ転生中に生まれて来たケースがあります。

Q：現在、いくつかの国では胎児の細胞が研究のために使用されることに関する問題が起きています；なぜなら教会は胎児の段階でも一人の人間として見るからです。しかし、私たちはエレブナではそのパーソナリティーは生まれようとしただけであり、実際には出産における最初の呼吸によってこの世界に来たわけではありません。

K：前に述べましたが、赤ん坊はそのサイコノエティカル体がその赤ん坊とつながるように築かれると言いました。ですから､身体はその特定のパーソナリティーのために聖霊的に築かれていきます；Lifeはその身体の中にあります。今やそのパーソナリティーはその身体とつながりますが、だからといって身体の中にいるということではありません。身体が築かれるのを待っています、それ故に未来のパーソナリティーはこの3次元の世界でまだ自分を現していません。そのパーソナリティーはサイコノエティカル界にいて身体が生まれるのを待っています。それはそのパーソナリティーが身につけるコスチュームのようなものです。

　さて、私たちがその身体にタッチ出来るか否かに関して何かを言うことができるかどうかは別問題です。胎児は聖霊的に築かれます。幸いにも、その赤ん坊の身体が正常に機能できるかどうか、あるいは母親の健康状態が危険な状態になるかどうか等の知識を神が私たちに与えてくれました、その場合には私たちは選択することができ、もしそのような危険がある場合にはそこに介入することができることを意味します。しかし、その他の理由で堕胎することは、私としては正しいとは思いません。私は確かにそれは正しくないと言えます；神の意志に介入する私たちとは何なのでしょう？

Q：私が質問したのは堕胎のことではありません；ある特定の医薬品を開発するために使用する幹細胞のことについてです。

K：それは完全に別の問題です。しかし、それが外の試験管の中で行われたか否かにかかわらず、パーソナリティーが関係しており、基本的にはそのような開発のプロセスは止めるべきだと思います。

Q：一つの細胞を取り上げることによって、幹細胞全体を破壊することになるという意味ですか？

K：もし身体を築くという聖霊によるプロセスに人間が介入するなら、その（＊胎児を築くという）プロセスが継続するとは思えません。

Page5

Q：このプロセス全体は未来において人間を助けることができるようになると思います。そして既に利用可能な器官は必要としている人々のために亡くなった人から移植されています。

Ｋ：個人的には私にはそれら全てについて何も言う権利はありません；人間は進化成長の結果として何が起きるかを待つべきだと思います。

　何であれLifeが許すことは起きるでしょう、そして人間として誰が絶対存在、Lifeをジャッジする権利を持っているのでしょうか！私が言える唯一のことは、何であれ人間がファンタジーとして表現することができるもの、それは将来その惑星において経験することになるからです。無から出てくるものはありません。そしてこの地球に関しては、これからも多くの新たな経験が出てくることになります。

Q：祝福(blessing)とヒーリングの違いを説明してくれますか？

K：実際、すべてのヒーリングは常に皆さんと共にあります。前に述べましたが、誰かが写真を持ってくるとき、そのパーソナリティーに与えられるものはエレメンタルであり、それは次の転生が始まるまでそのパーソナリティーと共にあります。

　誰かがエレブナに入会すると、その人が送った写真を通じてエレメンタルが築かれ、その人がエレブナから退会すると言わない限り、そのエレメンタルは常にその人と共にあります。退会した場合、エレメンタルはその人と共にありますが、それは休眠状態となります。エレブナの会員として皆さんには保護と導きが送られていますが、しかし皆さんが何でも好きなことをし始めると、そのエレメンタルはそのような行動の責任は取りません。それゆえ、誰もあなたを十字架にかけることはなく、あなた自身が自分を十字架にかけるようになるでしょう。なぜならあなたは自分の行動に責任があるからです。

Q：例えば、背中の問題でヒーリングを受ける場合、それと祝福との違いがあるのでしょうか？

K：唯一の違いは、あなたが自分自身を満足させることです…それが祝福であろうとヒーリングであろうと違いはありません。写真を通じて癒しが生じ、それゆえに人々はヒーリングを求めて写真を送ってくるのです。そして彼等は良い結果を体験しています。

Q：私たちの感情体はヒーリングに対してより良く協力するのですか？

K：それは前に述べたことです。なぜならそれはそのパーソナリティーが感じることができ、あなたはそれを感じることができます。それ故にあなたはそれをもっと受け入れるのです。

Q：そのエレメンタルは次の転生においては効果がない、と理解してよいですね。

K：はい、そうです。なぜなら、新たな転生は新たな可能性のサイクルを意味するからです。私たちはその新しいパーソナリティーが引き続き気づきを高めることに対して興味を抱くかどうかわかりません；それは特に、そのパーソナリティーが直前の転生においてどれだけ正直であったかによります。

　まず、パーソナリティーが肉体を去った後にサイコノエティカル界においても気づきの上昇に対する興味を抱いているかどうか、それをその時に見てください。その時にも情熱の火が燃え続けているなら、その場合には次の転生においてもその情熱が継続する可能性があります。それゆえに、探求者は先生（＊いわゆるグルのこと）の現在のパーソナリティーにあまりに執着することなく、教え自体に情熱を向けるべきです。

Q：私たちが亡くなっても、私たちは教えを愛していますが、先生は私たちと一緒にいないのですか？

K：はい、一緒です。なぜなら、あなたは誰をも失わないからです。レッスンはそこにあり、それらはそれに興味を抱く全ての人のものです。これらのレッスン、ガイダンスは今だけのものではなく、未来の世代のためでもあるのです。もしあなたがこの知識を十分に使い、実践するなら、いいですか、今生においても自己実現に到達することができるのです。ですからこの知識は現在のみならず未来の世代のためにも与えられているのです。勿論、理論的には1回の転生で自己実現を達成することは可能ですが、実際にはそれはあまり可能性はありません。勿論、あなた方は未来の世代における人々の一人となることでしょう。

　イエスキリストは弟子達に豚に真珠を与えないようにと言いました。豚とは想念願望ではなく願望想念のエレメンタルを現している人間を意味します。そして、いいですか、これらのレッスンの中には今でも多くの真珠が与えられています。エレブナでは、イエスキリストが弟子達に与えたことの多くが、あなた方に与えられています。与えられていない唯一のものは、キリストが弟子達に見せたプライベートな個人的現象です。そしてそれらの現象はあなた方には永劫に与えられないでしょう。例えば、実際的な現象とは水の上を歩くのを見る、死んだ人が生き返るのを目にする、物質化と非物質化などです。

　あなた方はこれらのいくつかを体験したかもしれません、目の前で現象が起きても、あなたはそれを認識しないのです。私たちは人々がこの道に従うように誘うために、このような現象によって人々を引きつけ、魅惑するようなことをすべきではありません。Lifeはそのようなことを必要としません。

Page6

Q：存在の諸世界、つまり元型、イデア、法則、原因、これらは神のルールの最初の現れですか？

K：私たちがそれらは元型、イデア、法則、原因であると言う時、それは後になって実存の諸世界に顕現するようになるLifeのステートを意味しています。元型、イデア、そしてLifeの様々な王国のフォームがあり、それらのフォームは聖霊的イデアを通じて現されます。動物王国、植物王国、及びその他のLifeの現象は神のアークエンジェル的現れです。それらは創造ではなく；それらは神の表現です。

　創造の諸世界と言う時、最初にそれらは神の黙想によって形成されたものであり、現されたものではありません。それらは後になって実存の諸世界においてそれぞれのイデアによって顕現します。

　Lifeの本質にはその主な特質として、活動・振動・波動があり、その活動はある段階においてその結果が生じます。その結果は何処にあるのでしょうか？それはそれ自体の中、活動の中です。それゆえに、何であれ私たちが創造とみなすもの、それはこの終わりなき神の黙想の活動（つまりそれは原因ですが）の中で生じます。

Q：しかし、終わりなき神の黙想の中に原因があるのですか？

K：原因はLifeです。それはエネルギーです。そしてLifeがあるところにはどこでも原因があり、この活動・振動・波動が私たちに結果を与えます。そして結果とは何であれ創造の諸世界の中で生じているものです。

Q：私には神、絶対存在には目的がないということが想像できません。私たちの概念においては目的があるはずなのです。

K：絶対存在、これら全てから誰が恩恵を受けるのでしょうか？神は何かを必要とするでしょうか？誰が恩恵を得るのでしょうか？実際、創造界とは恩恵であり、この場合には創造界と言う言葉で私は創造界における一番下の波動の世界を意味しています。つまり、これ全てのプロセスから恩恵を受けるのは、この実存の諸世界において現在のパーソナリティーとして自分自身を表現する人です。それはプロセスであり、何であれこのプロセスのなかで生じること、それはこの神の黙想の中で恩恵を受ける者です。恩恵を受けるのは現在のパーソナリティーですが、“いかにして”というのは別問題です。

Q：しかし、もし何かが恩恵となるなら、目的が必要ではないでしょうか？

K：目的とは自己実現に到達すること、つまり誰か他の人の“私”ではない“私は私である”と言えることです。しかし、絶対存在のアウタルキーの中でいかなる活動もなしに留まるとしたら、それさえも必要としなかったことでしょう。しかし、この現れの波動の中で無知のステートにいる他の全ての同胞の人間達のために、それは必要なのです。

EREVNA PYR89 /KE08 No.13S2 0520